

天王森泉公園 生き物調査と自然観察会

2023.12.5 (火) 曇り 参加者：12名 9:00~13:30

今までの穏やかな気温から、日中の気温で9度と突然の冬の寒さに震え上がりました。

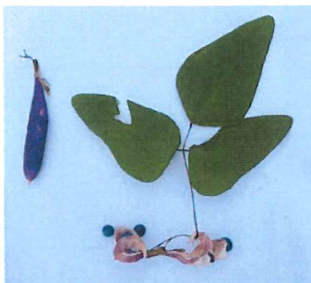
昆虫もほとんど姿を隠し、元気に騒いでいたのは木の実を啄むヒヨドリたちでした。

あまりにも寒かったので、今回は田んぼ、俣野・下飯田遊水地をカットして、オオヒシクイが見られる今田遊水地へ行き、そこで風邪をひかないうちに解散としました

野の花苑—見晴らしの丘—くわくわ森—森西側側溝—今田遊水地

外—外来種 園—園芸種

野の花苑



野大角豆 ノササゲ
紫色の莢 (他の場所)



山陰菊 サンインギク



家菊 イエギク 園



野薊 ノアザミ
春から花が途切れません



白侘助 シロワビスケ



山保呂之 ヤマホロシ



竜胆 リンドウ
花は終わり



椎茸 シイタケ コナラの
ホダ木に菌を打ち込んで



千両 センリョウ



黄実千両 キミセンリョウ



万両 マンリョウ



石落 ツワブキ



ヒヨドリ



野の花苑で見聞きした野鳥

コゲラ・ヤマガラ・シジュウカラ・ツグミ・モズ

ヒヨドリ (14.5羽近くがムクノキの実を啄んでいました。留鳥ではなく渡りの群れかもしれません。)

昆虫：オオカマキリがロープに止まったまま死んでいました。

弁天坂



猿取茨 サルトリイバラ
今年は赤く色づく



吐切豆 トキリマメ
赤いサヤに黒い実



野路菊 ノジギク
海辺の菊、葉が厚め



真葛 サネカズラ
実が赤くなる



日本水仙 ニホンスイセン



吉祥草 キチジョウソウ



クロスジフユエダシャク



ナガコガネグモ
このまま死んでいる

見晴らしの丘とその近辺



エゴノキ 季節外れの花



蝦蔓 エビヅル 紅葉きれい



ガガイモ



檜 ヒノキ 実



牛尾菜 シオデ
サルトリイバラ
に似ているが黒
い実

ヒメクダマキモドキ
寒さで動けなくな
っていたので、葉の間に
移した



キジバト羽
猛禽類に襲わ
れた跡
猛禽は襲った
後すぐに羽を
抜く、時間が経
つと抜けなく
なるため

抜かれた羽はエナガが巣材に使う

くわくわ森

森の中は花がほとんど終わり、植物の最終目的、次世代に繋ぐ「種子」タネができています



ガマズミ 今年はガマズミ、
マユミ、ムラサキシキブ実が少ない



野竹 ノダケ



杜鵑 ホトトギス黒い点はサヤ
の隙間からこぼれ落ちた種



キク科の仲間 田村草 タムラソウ



糸 オケラ



大薊 タイアザミ

これらのタネは、沢山あるようですが、ほとんどが「秕シイナ」[殻ばかりで中身がない、うまく実らないもの]ばかりです。 発芽するタネはタイアザミ右隅写真のように丸みを帯び、中身が詰まっている状態です



ネット状



山百合 ヤマユリ

晩秋、立ち上がった実が割れ、薄膜状の平らなタネがぎっしり重なったサヤの側面はネット状になっていて、その間を抜ける強風によってタネは真上に吹き上げられ、紙吹雪のように舞い散る



ゴンズイ ゴンズイの幹は、右上写真の魚のゴンズイと同じように白い線が目立つため、名付けられたと言われている
ゴンズイもトキリマメも、赤いサヤに黒いタネが付いているが、どちらも食べる部分のない硬いタネで、美味しそうに鳥をだまして運ばせる



吐切豆 トキリマメ



烏瓜 カラスウリ 果肉内のタネは大黒様や打ち手の小槌に似て、お財布に入ると縁起が良いとされていた

森の中で数少ない花



鶯神楽 ウグイスカグラ



八手 ヤツデ



白ダモ 花と実と一緒にみられるが今年の実がない



藪椿 ヤブツバキ



茶梅 サザンカ



掃き溜め菊
ハキダメギク



桑草 クワクサ
葉がクワの葉に似ている



犬鬼灯 イヌホオズキ

森の中で赤く色づく木々



錦木 ニシキギ



鎌柄 カマツカ



山香ばし ヤマコウバシ



櫨の木 ハゼノキ



榎茸 エノキタケ 食用 くわくわ森では時々みつかると、店頭にあるものより大きい、香りはそのもの



粗毛木耳 アラゲキクラゲ 食用



青木 アオキ まだ冬なのに新芽が出ている



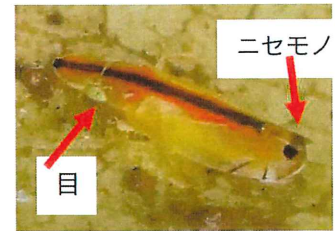
メジロ・ツグミ



エサキモンキツノカメムシ



アミメクサカゲロウ



クロスジホソサジヨコバイ♀
6mm 大 ヤツデの葉裏にいる



ヨツボシカメムシ



ツヤアオカメムシ



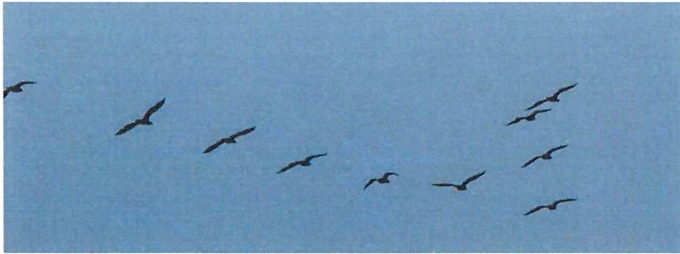
ハラビロカマキリ 卵囊



キバラヘリカメムシ

今田遊水地

天王森泉公園で昼食後、あまりにも寒いので、途中を飛ばして今田遊水地に行き野鳥を見ました。



カワウ 雁行 十数羽の群れが何組も飛んで行った



オオバンとオオヒシクイ (天然記念物) 並んで見ると、オオヒシクイの大きさがわかる



オオヒシクイとダイサギ



オオバン 土手の草を集団で啄んでいる



アオサギ



ハシビロガモ 雄エクリプス(カモの雄が非繁殖期に雌のように地味な羽色になる状態)、メスにはない雨覆いの水色と次列風切羽の緑が見える

野鳥

カワセミ・コガモ・スズメ・オオジュリン・コサギ・イカルチドリ 9羽・カルガモ・ハシボソガラス